



日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人材育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation) の一員として、20ヵ国 60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころからだの飢餓」に応える活動をしています。

飢餓対策ニュース 第311号 発行日 2016年5月20日 (毎月20日発行) 定価 15円

1 分間に17人 (内12人が子ども)
1 日に2万5,000人
1 年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています。



一般財団法人

日本国際飢餓対策機構

2016

6

No.311

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる

被災されました皆様に
心よりお見舞い申し上げます

熊本地震緊急支援・報告



南阿蘇の活動拠点では、5月4日 BBQや子どもの遊びの場を設けて被災者に休んでいただきました

揺れ動く地に立ちて

日本国際飢餓対策機構 常務理事 清家弘久

4月14日、16日に連続して発生した熊本地震で困難の中におられる方々のために、全国から、全世界から、自分の痛みとして感じて、たくさんのご協力をいただいていることを心から感謝申し上げます。

昨年4月のネパールで起こった大地震は記憶に新しいですが、今年に入ってインド、中国中北部、台湾、ネパール、アフガニスタン、ミャンマー、熊本、バヌアツ、エクアドルとかつてないほどの大きな地震が頻発し、日本周辺でも南海トラフが心配されています。

讃美歌の中に「遠き国や」という有名な歌があります。関東大震災の後に作られました。作った方はJ.V. マーティンさんという大阪市立高等商業学校 (現大阪市立大学) の英語教師として働いておられた宣教師です。震災のあった1923年9月1日に東京に来ておられ、震災に遭遇しました。彼は被災者を見舞うために明治学院に行きました。多くの方が家族と家を失い、すすり泣く姿があったそうです。被災者に支給された蚊帳のなかのロウソクの明かりが、マーティンさんには十字架に見えて、すぐに歌詞を書いたそうです。「遠き国や海の果て いずこに住む民も見よ なぐさめもて変わらざる 主の十字架は輝けり 慰

めもてながために 慰めもてわがために 揺れ動く地に立ちて なお主の十字架は輝けり」(1番)

東日本大震災後、福島県の南相馬に移り住んで作家活動をされている柳美里さんは、いつも讃美歌を聴きながら執筆しておられるそうですが、ご自身のブログの中で好きな讃美歌が9曲あり、そこに東北地震で被災した福島第一聖書バプテスト教会の献堂式で歌われたこの「遠き国や」が加わったと記しておられます。

「水はあふれ火は燃えて 死は手をひろげ待つまにも なぐさめもて変わらざる 主の十字架は輝けり」(2番)

熊本で全国・世界各地から来られているボランティアさんの力が、被災されている多くの方々の励ましと慰めとなっています。荷物運びを手伝っている若いボランティアさんを見て「こんな若い人が自分たちのために働いてくださっている」と涙しながら感激されています。変わり果てた家やコミュニティの再建は時間がかかりますが、必ずまたあの平穏な日々を取り戻せることを信じて、JIFHは協力させていただきます。

「揺れ動く地に立ちてなお十字架は輝けり」

酒井慶子を再びフィリピンに派遣

当機構は、元フィリピン駐在員の酒井慶子さんを4月15日にフィリピンに再派遣しました。現地パートナーのハンズ・オブ・ラブ・フィリピンで酒井保と共に活動します。

サマーキャンプ in ウガンダ 参加者を募集しています!

期間:2016年8月15日(月)~24日(金) (10日間)
ウガンダのナムトゥンバ地区で行われている子どもの支援現場を訪問して、交流と学びをするスタディキャンプを実施します。
旅行代金:310,000円 (相部屋※4名1室)
※旅行代金以外に別途諸費用が必要。
募集人数:12名 最少催行人数:10名
申し込み締め切り:6月17日(金)
お問い合わせやチラシのご請求は、当機構東京事務所まで。
担当:福地麻美 mfukuchi@jifh.org
※このキャンプはJIFHが企画、旅行代理店のマイチケットが主催となります。

カラフル刺繍のポシェット

バングラデシュの地方で暮らす女性を応援するフェアトレード商品

「ちょっとお出かけ」にも便利なポシェットの新品です。ファスナーのついた内ポケットが便利です。
素材:コットン100%
色:①きなり②黒
サイズ:巾17cm×高さ22cm
税込2,500円 送料全国無料
注文時に希望する色番号をご指定ください。



【問合せ】キングダムビジネス

〒540-0026 大阪市中央区内本町1-4-12NPOビル402
TEL:06-6755-4877 FAX:06-6755-4888
メール: customer@kbwin-win.org
Web: キングダムビジネスで検索。

常総水害被災者支援のサッカー大会を応援

昨年9月の鬼怒川氾濫により甚大な被害を受けた常総市では、今も復興の取り組みが続いています。去る5月5日、常総市吉野サンビレッジ・マル英サッカー場で、「常総復興サッカー大会」が行われました。主催は「常総復興を支える会」の犬上仁さんら地元のボランティア。



当日は、元Jリーガー中田浩二選手がサッカー教室を行い、その後、地元の5つのサッカーチームとブラジル、水海道一高、エスペランサの計8チームで試合が行われました。また高杉市長、飯田・神達両県議員、地元出身の女優、羽田美智子さんも駆けつけて子どもたちに声援を送ってくださいました。

JIFHはこれまでスタッフ及びボランティア派遣をしてきました。今回は、神奈川県のエスペランサ・スポーツクラブの少年サッカーチーム (本郷台キリスト教会) や子どもたちに揚げたてのパン200食を無料提供頂いた「パン・アキモト」さんの紹介などで大会を応援させていただきました。

ハンガーゼロ サポーターを大募集中!!

5千円へGO
4/12/20

今すぐ▶▶▶ 各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1円1,000円)
- ☐ チャイルド・サポーター(世界里親会) になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1円1,000円)
- ☐ JIFHサポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1円500円)
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: 男・女
〒
フリガナ 住所:
.....
(電話)
▼申込日: 年 月 日▼NL 311号

FAX・072-920-2155

■発行者 岩橋竜介

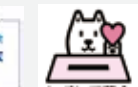
■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス http://www.jifh.org/
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック https://www.facebook.com/hungerzero

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで

- 郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
- 他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ



大 阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東 京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
東 北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ2階E
TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651
愛 知 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル3F
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
広 島 〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLCボックス2F
TEL (082)546-9036 FAX (082)546-9037
沖 縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾンズ米202号
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
U S A Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が送付作業の協力をして下さっています。

「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

★Tポイントを利用して「南スーダン・ンブイ小学校給食支援」ができます。現在までに167781ポイント(円)のご協力(1767件)がありました。募金はTポイント募金で検索



Hunger Zero Africa

ハンズ・オブ・ラブ・コンゴ（コンゴ民主共和国）
ジェローム・カセバ

駐在員
報 告

コンゴ民主共和国は、WFP(国連世界食糧計画)の発表によると東部での紛争だけではなく、外国からの支援の縮小や鉱物資源の国際市場価格の下落とあいまって、国民の95%が、1日2ドル以下の収入で生活しています。5歳以下の子どもの9%が急性栄養失調で、43%が慢性栄養不足に陥っているという非常に危機的な状況にあります。農村部の貧困が最も深刻で、食料不足と栄養不良が蔓延しています。国内避難民と中央アフリカ共和国からの難民は、特に食料不足が深刻、そしてその人たちを受け入れている地域の村も同様です。

コンゴの人々のチャレンジを応援ください

2013年にこの国第2の都市ルブンバシで、VOCセミナー（地域変革セミナー）がJIFH主催で開催されました。東部から子どもを含む130人あまりの人たちと避難してきていたパメラさんがこのセミナーに参加しました。そして、学んだことを実行しようと、一緒に避難してきた人たちと共にプエトで農場プロジェクトを始めて2年が過ぎました。小さい規模ではあり



政府から提供された製粉機（パメラさん）

ますが収穫が徐々に増え、政府からもその成果が認められて、製粉機2台とバイク1台が提供されました。これまで私たちハンズ・オブ・ラブ・コンゴは、トウモロコシの貯蔵庫と養豚の支援を行ってきました。

この避難民による農業プロジェクトが地域の人々と良い関係を築きながら地域社会に受け入れられ、さらに広がっていくことを願って、1年に2～3回避難民のグループと地域のリーダーのためにVOCのトレーニングを行っています。

【プエト】

4つの収入改善計画

50～60人が共同でトウモロコシを栽培することによって人々の

収入は改善されていますが、まだ子どもたちに教育を受けさせる基準までには達していません。さらに収入を増やすために次の4つのことを計画しています。

① 人参、キャベツ、かぼちゃ、バナナなどの換金作物を各家庭で栽培するための種を支援。養豚に加えて山羊や牛を飼育。



収穫前のキャベツ畑

② 魚（ティラピア）を養殖してルブンバシで売ること。

③ 乾季に農作物に撒く水は現在バケツで2～300m離れた川か



バイクに荷台をつけて作物を運んでいます



農業プロジェクトには国内避難民だけでなく地元の人たちも参加しています

ら運んでいます、川から水を引くためのポンプの支援。

④ 雨期に比較的時間ができる女性たちが縫製をして収入を増やすために、ミシンの提供。

【ルブンバシ】

有機堆肥作りを提案

国内避難民で町のルブンバシに残っている10～15家族の人たちは、以前と変わらず苦しい生活を強いられています、ハンズ・



立派に育った茄子を見せていただきました



オクラの成長ぶりを確認する女性

オブ・ラブ・コンゴにはこの人たちまで支援できるだけの十分な資金がありません。これらの人々の生活を改善する計画のひとつとして、荒れた土地を改良するために、有機堆肥作りを提案しています。

郊外に堆肥用の大きな囲いを作り、土とあちこちにある家畜の排泄物を集めて混ぜ合わせて、政府が提供してくれる堆肥化促進剤を加えれば1ヵ月くらいで売ることができます。

給食プログラム

コンゴ民主共和国には紛争や貧困が原因で孤児が多く、公立の孤児院は満員で十分にケアが出来ないことから、善意の人たちが、孤児たちのために部屋を提供したり、衣服や食べ物を運んだりしています。首都のキンシャサで以前から週に2回、蛋白源として



教育の充実もこれからの大切な課題

の大豆を混ぜたおかゆを提供していますが、第2の都市であるルブンバシでも行いたいと思っています。

50kgの米が8袋あれば100人の孤児たちに1ヵ月おかゆを提供することができるのです。

子どもの教育

コンゴ民主共和国では公立の学校であっても、教師の給与や施設費など、ほとんどすべての学校経費が親の負担となっています。そのために裕福な家庭の子どもしか教育を受けられないのです。このことも大きな問題で、なんとか支援の方法がないか模索中です。

コンゴの活動を 応援ください！

募金目標300万円

募金は、郵便振替00170-9-68590

日本国際飢餓対策機構

※記入欄に必ず「コンゴ」と明記ください。ウェブサイトからはクレジットカードを利用して募金ができます。お問い合わせは大阪事務所まで。



コンゴ民主共和国

ルブンバシ

プエト

コンゴ民主共和国と私たちの生活

コンゴ民主共和国の天然資源は、国際および地域政治に大きな影響を与えてきました。90年後半からの紛争による死者は540万人、多くの犠牲者は一般市民です。

紛争と密接に関係している鉱物資源（スズ、タンタル、コバルトなど）は、私たちが使用しているパソコンやゲーム機、携帯電話などの電子回路に欠かせないものです。

コンゴだけではなく、アフリカの多くの国々の物が、私たちの生活を豊かにしていること、そしてその国の人たちが苦しみの中で生活していることを思うとき、恩恵を受けている私たちにできることを考える機会になることを願っています。



絵・みなみななみ



日本国際飢餓対策機構 **熊本地震緊急支援** 九州キリスト災害支援センター

傷つき、苦しむ方々に寄り添う支援を

当機構は4月中旬の熊本地震により被災された方々への緊急支援を「九州キリスト災害支援センター（略称:九キ災）」（本部:福岡市、横田法路代表=当機構理事）を通して行っています。九キ災は、九州地区のキリスト教会、当機構を含む支援団体らで立ち上げられました。

熊本市内と被害が甚大であった益城町、南阿蘇の3ヵ所に活動拠点を設置（5月中旬現在）して、水や食料、生活用品の配布、ボランティアによる被災者住居の片付け応援、炊き出し、子どもや家族向けのケアプログラム、看護チームによる心身のケアなどを行っています。

物心両面でのサポート体制

活動拠点は支援センターの事務局としてだけでなく物資倉庫、ボランティアの宿泊にも活用、被災者からの要請に応じる形で人的・物質的なニーズにえています。看護チームは避難所や、高齢者が多くおられる団地などを訪問。



家財の片付けは住人の立会いのもとで（熊本支援センター）

健康相談や地元の助産院や病院と連携しての被災で手薄になった医療体制のサポートなども行いました。避難生活での負担が大きい乳幼児を抱えた家族や幼児のP.T.S.D.（心的外傷後ストレス障害）などへのメンタルケアにも対応をしました。

当機構は、支援センター（熊本市内）の事務局運営をサポートするため、震災支援活動の経験を持った伊東綾（東北事務所）を長期派遣、吉田をはじめとして各事務所からも人財を現地に送っています。

支援センターには、九州地区にとどまらず全国各地から多数のボランティアが駆けつけて下さいました。特に5月の連休には200名近い方々が集まり、熊本市内、益城町近郊、阿蘇地域に分かれて、被災された方々の必要に応えたり炊き出し、子ども向けのイベントなどを実施しました。

子どもたちに笑顔を

九キ災では、これからの活動の柱として、子どもケアプログラム「くまもとスマイル」を提唱。その第1弾として5月5日に御船小学校での遊びのプログラム（次頁に記事）、7日にプロ野球「ソフトバンクホークス観戦バスツアー」を実施しました。観戦バスツアーで



木山支援センター（益城町）で大学生ボランティアが子どもケアプログラム



くまもとスマイルやフオクトームソフトバンクホークス観戦ツアー

- 今までの怖かった地震の事とか、いろんな事を忘れるくらい今日はとても楽しかったです！（小学5年女子）
- サファテ選手に会えて嬉しかった。サインをもらったりするなんて特別なことなのですごく嬉しかった（小学3年男子）

は、ソフトバンクのサファテ選手が益城町の子どもや家族、付き添いボランティアのために70名分の観戦チケットをプレゼントして下さいました。「くまもとスマイル」は、被災者支援としてこれからも継続していく予定です。

地震発生からすでに1ヵ月を経過しましたが、現在も9千人近くの方々が避難所生活を続けておられます。（5月23日現在）

その多くは、自宅の倒壊、余震への心的ダメージ、高齢などの理由で復興に歩み出せない方々です。当機構は、そうした弱い立場にある方々に寄り添える形で支援を継続してまいります。

孤立状態の阿蘇の人々のもとへ

【吉田知基・阿蘇レポート】

4月28日から5月7日まで、私は阿蘇地域周辺を拠点として、ボランティアのコーディネートをしながらか被災状況の聞き取り調査や支援物資配布、家屋の片づけ作業などをさせていただきました。地震によってライフラインが途絶え、阿蘇大橋の崩落や土砂崩れによって主要道路が寸断され、その地域は孤立状態にありました。家の全壊を免れたものの、災害支援の情報を得ることができずにいた在宅避難者の多くは、最初の数日間は食べることに窮していました。そのため、私たちは避難所への物資輸送ではなく、孤立している在宅避難者を探し出し、直接物資を届けていくようにしました。

技術系ボランティアも活躍

そのようなつながりから片づけ



応えていきました。その中には、地震で倒れてしまった家族のお墓を建ててほしいという依頼、水道管が破損しているようなので、地面を掘って調べてほしい（写真④）、床下の電気配線が寸断されていないかチェックしてほしいなど災害ボランティアセンターでは受け付けていないような作業に対しても、ボランティアで来てくださった専門の方の協力を得て、できる範囲で応えさせていただきました。

しかし、まだまだ地域の方々の不安は続いています。度重なる余震の影響もあり、阿蘇の山々には亀裂箇所が多く見られます。これから梅雨に入るため、ますます土砂災害の危険性が広い範囲で高まっているのです。私たちは備蓄できる支援物資を地域の公民館や教会に置き、そのような緊急事態にも対応できるようにしていきます。

作業の依頼を受けようになり、その都度ボランティアチームを派遣して、必要に



南阿蘇で行われたBBQ。「地震にあってから初めてお肉を食べた」との声も

「阿蘇はこれからの豪雨災害に備える必要があるため、食料の備蓄が必要だ」との被災者の声に呼応して韓国飢餓対策機構と協力して「パンの缶詰」6千缶を提供。



**熊本地震被災者を応援ください
募金は郵便振替00170-9-68590**

日本国際飢餓対策機構 熊本地震と明記
ウェブサイトからクレジットカードが利用可能

※募金受付は6月末まで



熊本ハーベストチャーチ
中村陽志牧師

4月14日と16日の激震で被災した熊本と大分を取り囲むようにして、九州全域をつなぐ超教派の災害支援のネットワーク「九州キリスト災害支援センター」が4月18日に立ち上げられました。その活動拠点の一つ、熊本ハーベストチャーチの中村陽志牧師にお話を伺いました。



地震のあった週の17日は熊本ハーベストチャーチの14周年記念礼拝を予定していました。それに先立って皆で考えていた教会の「2020年ビジョン」が、「この町の必要に応える」でした。教会員が被災して記念礼拝には十数名しか集まらなかったが、私自身が被災したことや今までの歩みを振り返ると、このビジョンは神様のご計画だったと確信しました。

九州キリスト災害支援センターは、多くのクリスチャンの祈りとサポートの結果できたもので、ここを通していくつもの不思議な出会いがあります。そして大きな団体では手の届かないところに必要なものを届けることができます。これからはさらに「くまもとスマイル」という名のもとに、地域に密着した子どもの心のケアをし、親子でリフレッシュできるような働きをすることで神様の愛を実践したいと願っています。



▲現場では、JIFH、ワールドビジョン、クラッシュなどの国内外で活動する諸団体がそれぞれの特長を生かしながら、力を合わせています。

九井災／看護チーム・山中弓子さん報告

テレビで地震のことを知った時、阪神淡路大震災で被災した経験からこれは大変なことになる、行かなきゃと思いました。避難所では感染症が発生したりトイレに行けないので水を飲まない人が多くなって体調が悪くなったりするなどの危険が大いにあります。クリスチャンの災害に関するフェイスブックで情報を得て、受け入れ先がなくても行かなくちゃと思って来しました。車の中で寝泊りしている人が多く、エコノミークラス症候群になる人が大勢おられました。また避難所の硬い床に長期間寝ていると下半身の血流が悪くなって、同じような症状になってしまいます。2時間ごとのラジオ体操を提案したのですが、実現できなくて亡くなった人があったのが

悔しいです。

また私は、子どもたちの不安を軽減して安心感を与える、「タッチケア」を勉強したので、恐怖を経験した子どもたちの役に是非立ちたいと思いました。皮膚は露出した脳といわれていて、皮膚へのタッチングやぬいぐるみなどを抱いて、気持ちいいと感ずることで落ち着くことができます。非常時に子どもたちのそばにいつも誰かがいる、ということができないので、その代わりにぬいぐるみや抱き枕を持たせてあげたいと思っていました。熊本ハーベストチャーチでそのことを話した時、企業に連絡してくださって、犬のぬいぐるみ600個の協力を得ることができました。

被災地でこれから求められるケア

ストレス管理や子どもの見守り

ブックで情報を得て、受け入れ先がなくても行かなくちゃと思って来しました。車の中で寝泊りしている人が多く、エコノミークラス症候群になる人が大勢おられました。また避難所の硬い床に長期間寝ていると下半身の血流が悪くなって、同じような症状になってしまいます。2時間ごとのラジオ体操を提案したのですが、実現できなくて亡くなった人があったのが

休めない看護師を助けたい

また被災していても働いている

避難所の小学校で乳幼児の沐浴サービスをする山中さん⑧



現地の看護師が休めるよう助けたいと思って、知り合いの看護師に手当たり次第連絡しました。SNSを使って、呼びかけたりもしましたら、ボランティアの看護師を派遣しているところから来ていただきました。駆け付けてくださった看護師たちはみんな、こんなこともあんなこともやったらいい、と熱意を持っておられるので、それらの人たちを必要な所に別れて行って頂いています。

これから被災地で求められるのは、ストレス管理、感染症、熱中症対策に加えて、親がかたづけをしている間の子どものケアだと思っています。

くまもとスマイル

子どものためのケアプログラム
～みんなで遊ぼう御船町～
5月5日 御船小学校

駆けっこや楽しいゲーム体験でストレス発散

子ども60名余、保護者、ボランティア23名、合計100名を超える参加者があり、校庭を開放してくださった御船小学校の校長先生と教員の方々、役場の方も協力してくださいました。鬼ごっこ、体操、全員かけっこ、50メートル走、ドッチビー、ロケット飛ばし、マイバッグ作りなどのプログラムで、好きなところを選んでまわられるようにしました。2時間の予定が前後あわせて4時間以上のプログラムとなりました。

「明日も来るね～」「今日、来てよかったな～」と言ってくれる子どもたちを見て、ずっと一緒に寄り添うことはできなくても、このようなプログラムを通して子どもたちが被災地という現実に向かい合えるように、心の充電をしていくことはできるのだと感じました。関わる一人ひとりが、自分にできることを最大限に活かせば大きな力になると実感しています。(文と写真：sola現地〈東北〉ディレクター平田美保)

▶プログラムは東日本大震災で活動実績があるsolaのスタッフがボランティアの事前訓練を行ない、ワールドビジョンなどが運営をサポートしました。



森祐理親善大使ハワイコンサートツアー

アローハ! 3月17日～29日「愛の手インターナショナル(AINOTE)」主催のハワイコンサートツアーに行きまわりました。ハワイの優しい風に包まれて、現地の方々と心を繋ぐ素晴らしい時となったことを感謝しています。「AINOTE」は、日本国際飢餓対策機構(JIFH)の特命大使であるトム藤川さんが代表を務められているアメリカのNGO団体です。アメリカ国内にてJIFHの啓発活動をしておられ、ハワイは、サンフランシスコ、ロス、東海岸に次いで4回目のツアー。回を追う毎に更にチームワークも良く、中身の濃い旅となりました。



蒔かれた種が豊かな実を实らせまうように



藤川特命大使(左)を囲んで



どのコンサートでも笑いと涙がいっぱいになりました(木曜午餐会にて)

今回のツアーは、9回のコンサートや集会に加え、ラジオ番組出演というスケジュールでしたが、ハワイのゆったりとした雰囲気のおかげでしょうか。リラックスしてすべての会に臨むことができました。会場も様々で、ホームコンサートありVIP集会あり、親子コンサートや百年の歴史を持つ一般の会でのコンサート、もちろん教会での賛美もありました。

懐かしい歌や賛美歌を通して、神様の愛と共に世界の子どもの現状や災害被災地の状況等をお伝えすると、多くの方が涙をこぼして聴いて下さいました。あ

る会場では、被災地でのお証しの最中に、通訳の牧師先生が涙で言葉が出なくなられたほどです。

心が一つになった瞬間

最後の日曜は、連盟の教会合同での「愛の手チャリティコンサート」。ハワイ唯一の日本語放送「KZOO」のアナウンサーが司会をされ、中野雄一郎先生も力強いメッセージをお語り下さいました。共に歌い、笑い、涙したコンサートの感動は今も忘れられませんが、最後に全員が立ち上がって手を繋ぎ賛美した時は、本当に心が一つになった瞬間でした。



ホノルル教会でのイースター礼拝賛美



愛の手チャリティコンサート(ハリス合同教会にて)



(ラジオKZOOにゲスト出演)

今回のコンサートツアーを通して、AINOTEとJIFHは単に物資の支援をするのではなく、人々の魂に届き、神様の御業がなされる働きと、現地の方々も受け止めて下さったように思います。この働きに誠心誠意身を捧げておられる代表の藤川さんの姿にも心打たれました。一人の祈りが誰かを变え、多くの人々を変えて行くのだと感じました。このツアーを通して蒔かれた種が、最善の時に芽を出し、豊かな実を实らせまうよう祈ってやみません。背後で支えて下さった多くの皆様に心より感謝しつつ、ハワイツアーのご報告とさせていただきます。(報告・写真：福音歌手 森祐理)